

(議長)

日程第5 一般質問を行います。

今定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり4名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可します。

まず、「横山議員」の発言を許可します。

「横山議員」

「横山議員」

では、質問致します。3問ございますが先ず1問目。

質問事項。地域食の向上についてという題にしました。先般、何月何日でしたか、函館において5月25日に北前船寄港地フォーラムというのがございました。これは打越議長小田島商工観光課長も出席されていましたが、私も出席しまして話を聞いた中で大変示唆に富むことがございましたので、それを参考にしています。

地域における食の個性化、これが非常に大事であると、それによって観光客も増えるし地域の特性も出せるということで、その食の個性化ということを中心に磨き上げていくか、これは各食堂なりレストランなりホテルなり旅館なりの調理技術の向上をいかに働きかけるかということに通じるかと思えます。

それが如何に大事なことであってその一つの証左として、証として見本として今回、大変結構なことだからお名前を出した方が良かったと思いますがミシュランという世界的に有名な食の評価する本があるわけですが、その北海道版において中歌町の「やまげん」さんが取り上げられていると、それが非常に良い効果でいろんなところからお客さんと呼んでいるということがあります。

いろいろ観光協会さんあるいはいろんなところでいろんな催し物をおこなっている、例えば鍋祭りですとかイカ刺し祭りも含めましていろいろやられていますが、それを今後もいかにブラッシュアップしていくかということですね、単に地域で楽しむだけではなくてよそにも通用する様な食を磨き上げていくことが大事だと思うんです。そのことについて、町長のご意見をお聞きしたいと思えます。そういう趣旨です。

(議長)

「町長」

「町長」

まず、地域食の向上についてのご質問であります、「ミシュラン効果」をひ

とつの動機付けとしたいと、こういうお話しでした。

「食と観光」についての考え方ですが、食材、料理、食文化というのはその土地固有の自然環境や歴史等と密接に結びついたもので、地域の魅力を構成する重要な要素であることから、これらを活かした地域振興の取り組みが各地で展開されていることはご承知のとおりでございます。

当町でもご承知のとおり「食を通じた町づくり」ということで昨年より江差町地域雇用創造協議会及び江差観光コンベンション協会が連携して江差の歴史に欠かせない海や山の幸を利用した「にしんそば」はもとより、「江差にしん丼」や「カレー」といった18種類程の地域メニューが開発され、現在江差町を訪れる観光客の皆様方に提供し、地域食の開発向上に努めております。

個性ある店の味や伝統技法の追求は、各々の事業者の努力と研さんが総てありますが、今後も地域食の向上につきましては、開発やPR等引き続き関係団体等と連携して支援して参りたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

2問目に移ります。

地元で根差した学校教育、地域教育についてという題にいたしました。

これも先ほど申しました、北前船寄港地のセミナーでも、北海道の観光協会長ですか、坂本真一さん、のお話しの中にもあったことですが、それと関連しまして、私大変感心したことなんです、ご存じの方も多と思います。田沢町の工藤正道さんが立派な昔の遊びですとかお話しですとか、いろいろ本にされてまとめられまして、私もそれ読ませていただきました。

大変、懐かしく、あーそうだった、そうだったと、あるいはこの地区とあの地区はまた違うんだとか、地区地区の遊びがあるということも大変良く分かって参考になりました。

そういう中でこういうことの教育が地元の歴史、江差というところは大変伝説も多いところですから、そういうものを早い時期に、特に小学校のうちだと思えますね。私は小学校時代に対していい思い出がありまして、そういうことが郷土愛の涵養につながると、そういう思い出が自分の育った町にあると皆さん誰でもあの、良い思い出を後後思い出すかと思えます。それこそ、ある程度大きくなったり大人になったりして感じるのと小さい時の記憶というものは大変違うものがありまして、早い時期にそういう郷土教育、郷土のいろいろな

歴史やそういうことを学校教育に取り入れてもらったり、あるいは学校だけに限らず地域社会教育と書きましたが地域社会に取り入れていろいろな機会を設けていく、そういう人たちが育って仮に江差から働きに、あるいは学校に出ているかたでも郷土に対する愛着というものは大変深いものをもつことになるのではと期待いたします。そういうような学校教育をどうされているのか、いろいろな機会で行われているとは思いますが、それをもう一度教えていただきたい。

(議長)

「教育長」

「教育長」

地元で根ざした歴史や伝説などを、学校教育・社会教育に取り入れてはどうかという質問でございます。

議員ご承知のとおり、教育委員会が昨年策定した教育推進計画において、『ふるさと江差に心の向く教育』の推進を大きなテーマとして、江差の自然や文化・歴史・産業などを教育活動に生かしながら郷土を愛し、江差の未来を切り拓く心や態度を育てる取組みを図ることを大きな柱としています。

学校教育におきましては、歴史と文化に培われた江差固有の学習素材を積極的に活用しながら、小中学校9年間で江差町の文化財施設見学や歴史を学び、郷土を愛する心の醸成を育み、我が町に誇りを持たせる『ふるさと江差発見学習』を今年度からスタートさせてございます。併せまして、「江差追分や郷土芸能の授業」、あるいは北中学校における「尺八の修得授業」も継続して実践しているところであり、これらを含む『ふるさと学習』は、私ども江差町の特色ある教育活動として大きく自負しているところでございます。

また、社会教育におきましては、地域で語り継がれてきた民話や伝説、先人の体験談などを、大人から子どもへ語り継ぐ『古談トーク』の実施、これは今固有名詞を挙げました方についても、去年、講師として利用させていただいております。更には、江差を知り、江差に誇りを持ち、学ぶことが楽しい人づくりの場を目指す『江差学』の開催準備をしているところであります。『江差学』に関しましては、既に開講講座を終えています。具体的な取組みとして、今年度のテーマを「江差追分」と「森」とし、講演会と現地見学をすることで、運営委員会を中心に準備を進めているところでございます。

いずれにしても、学校教育であれ社会教育であれ、郷土愛を育むことは極めて大切なことと認識しておりますので、今後におきましても、歴史と文化を誇る江差町において、『ふるさと江差に学ぶ』視点から学校教育と社会教育の融合を図り、積極的に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解頂きた

いと存じます。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

3問目です。

トヨタ関連企業との取引に関わる民間会社設立について、ということを経済委員会にいたしました。

先般、町長から報告ありました全員協議会においてありましたが、江差町にトヨタ関連に関する新しい会社を作ったと、いろいろあります。

それを聞いていまして、あるいは色々資料を調べまして、町長が大変力を入れて1次産業2次産業3次産業、6次産業というんですか、とかを目指しての6次産業化を目指して江差における産物、主に1次産業のもので、水産品、農産品、これらがあるのですがこれらがあまり加工されることなく、ただ原材料として流通していると、それにもっと付加価値を付けてやることは大変付加価値を付けることになるから、メリットがあるしそうするということは加工場なども設立されると、そうすることによって雇用も発生すると、それを目指してやるんだということで長年、随分頑張ってそれを目指してやってこられているということは良く分かっています。それ自身は私も大変良いことだ、江差に歴史的なことがあるんだろうと思いますが、一次産品の水産品農産品の加工工場がないというのも近隣の、比較的江差と比べて小さな町に比べても加工場が少ないというのは、大変な歴史的な問題であるけども、今となると大変困ったことだな、それがあれば良かったのになということになる、それはつまり雇用にも関係するからですね。

そこを町長は目指されたというのは、私もそれについては同感でございます。

ただ今回の新しい会社を設立してそこが江差の産品を扱うと、特にこのトヨタ関連企業との取引においてはそこが扱うということが説明されていましたが、実際、こうなりますとその会社は江差町に加工場を設立していません。町長の話としては、ある程度の採算が取れる取引量になった時点で町内に工場を設置し、雇用の拡大を図っていくことを目標としていますと、「ある程度の採算が取れる取引量になった時点で」町内に工場を設置すると。

今までに色々まあ、努力されたり働きかけたりしてきましたが、前から私も何度か指摘させていただいていますが江差の1次産品の種類、あるいは量などを考えますとなかなかトヨタ関連に下ろす様な量を確保するのは難しいと思います。従って今回のものどういふ風なことである程度の採算がとれる取引になっ

た時点で加工工場を設立する目途、あるいはその方針がたったのかどうか。たったからこの新しい会社を作ったのか。そしてそれが雇用にどういう風に反映していくかということが私は今回の会社設立だけでは見えない。そこに一つ大きな疑問を感じざるを得ません。そして、その民間会社設立にともなって、今までトヨタ関連には役場の職員の働きでもっていろいろ荷物の取りまとめ、あるいは送りも含めまして、発送なども含めまして、あるいは販売なども含めまして役場でそれを担ってきたわけですが、今後、この民間会社が設立されたら、役場との役割分担はどうなるのか、先ずそこを1問目にお聞きしたいと思います。

(議長)

「町 長」

「町 長」

「トヨタ関連企業との取り引きに関する民間会社設立」に対するご質問であります。

先の全員協議会においてトヨタ関連企業との取り引きに関する民間会社設立経過や当面の事業展開などを報告させていただいておりますので、ご質問の趣旨に沿って答弁させていただきたいと思います。

1点目の「町内における事業の実態」はとのご質問ですが、従来、町内において小規模ではありますが、地域産品を活用し、懸命に努力されている方々の製品が少しでも販路拡大に役立つことが出来ればと、役場がお中元、お歳暮、関連企業のイベント食材の取り引きなどの仲介を行ってきたところでございます。こうしたこれまでの取り組み状況と、将来的視点に立ち、去る5月17日に企業設立になったところでもありますけれども、会社が設立後はこの会社を取り仕切るということになるわけでございます。

トヨタ関連企業への営業活動は、函館の企業の東京営業所が担い設立された会社は、基本的に江差産の農水産物やその他特産品などを調達、販売する会社であり、その中心的な販路先としてトヨタ関連企業を位置づけているということでもあります。

今朝も、この仲介をしていただいている方から私の携帯に電話があつて、今その販路先を一生懸命廻っていると、こういう連絡をいただいているところであります。

2点目の「加工場の設立、雇用、そして地場産品の加工、付加価値化」の質問ではありますが、企業を経営している横山さんには釈迦に説法かも知れませんが、当然のことではありますけれども会社設立と同時に加工場を設けたり、雇

用を発生させるということは企業にとって大きなリスクなるわけですよ。トヨタ関連企業との取り引きにより採算性が見通しがついた段階で生産拠点となる加工場を江差に構え、少人数の雇用からスタートしたいという目標を掲げての会社、現地法人を立ち上げた、こう言うことでございます。

また、新しい会社は、町内製造事業者の商品を中心に扱うことは勿論でありますけども、地場の農水産物を使った加工製品の開発などにも取り組み、江差の産業振興に役立ちたいという思いで会社設立となったものであります。

会社が今、取り組んでいる販路の拡大と定着が進み、江差が生産拠点の一つとなるよう期待しているところでございます。

3点目の「役場との役割分担はどうなるか」とのご質問ですが、「製造業が弱い、雇用の場が少ない、農水産物に付加価値を付けたい。」こういう町の政策課題を打開するため、国や道の補助事業などを取り込んで様々な事業展開をしてきたわけでありましたが、そのためには、まず販路を確保する必要があるということで、トヨタ関連企業との取り引きを行政が進めてきたわけでありまして。今般、それをバトンタッチできる新しい民間会社が設立されたわけでありましてから、その営業活動が成功裡に展開できるよう側面的な支援、協力をしていかなければ地域課題が解決ならない、このように思っておりますのでご理解をいただければと思います。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

2回目の質問をいたします。大変トヨタ関連の会社などへの営業など、本当にこれは大変な濱谷町長などとのコネクションの今までの努力が果たしたんだろうと思っておりますが、思います。

ただ、販売の方につきましてはお中元、あるいはいろんなイベントなどで今までも出されているのは聞いています。それをさっき言いましたようにその仲介を労力を出して全部やっているということになっています。今後のことは新しい会社ができたのですからその会社を通してやられて、通してというか会社が主体的にその事業をされるというふうに私らは解釈しました。

ただ、新しい会社が説明と取引についてということでの説明会があったのですが、その時も話されていましたが町側からの説明がありましたが、これは江差の物を扱う、江差で出来たものを販売する、それでトヨタ関連の会社は取引するんですよと、けっして単に函館の企業さんの商品、例えばそれは函館で作られていたり銭函で作られていたり、あるいはどっか函館で集荷した物を送っ

でもらうものを、トヨタが応援するんじゃないよ、あくまでも江差で作られたものを販売することを応援するんですよということを話しされていることだと聞きました。当然のことだと思います。

そういうことから言いますと、この今まで色々検討したり時間をかけたりした江差の商品を大量に発送する様な事態にどのようなことで出来るのか、非常に難しい訳です。だからこそ今まで何年もかかってもそれができなかったんです。販路を求めるのは大事なことです、販路はその給食会社、トヨタの給食会社に卸す、これはもう大変な量を期待できるんですが、それに江差町としては対応できるのか、それは大変難しい事だと言うのは分かりましたね。

それから、イベントやお中元あるいは高速道路ですか、道の駅かなんかで販売も予定されていたり、あるいは前にもやっていますが中部国際空港セントレアでの販売などもやられるということですが、それはまあ、非常に単発であつてとてもとてもビジネスベースではありませんね。そういうところが如何に会社設立につて、これはまあ町長の期待は良く分かりますが現実的にそこにどういう風に結びつくのか、今までやってきて難しさがあつたものがどうして新しい販売会社を江差に設立することによって、ある程度採算が取れる様なものになるという、これ江差の物を売るだけではとても採算ベースにあうものではないと思いますが、そこをもう一回町長の考えをお聞きします。

(議長)

「副町長」

「副町長」

横山議員のご質問を聞いていて、なんとなくイメージいたしますと、大量にですね、マスプロだと、大量生産大量消費をイメージした会社設立を直ぐ直ちに展望するというようなイメージにい聞こえてならないわけですが、決して今、私どもが当面のターゲットにしているのはそういう姿ではありません。江差の地域で採れる物を中心にしながらですね、それを可能な範囲で生産・供給するところからスタートしましょうと、本当に端緒についたばかりの話でありますから、今段階で数億円規模のそういう感じの工場や販売を想定した事業着手となっていない、もちろん現段階では想定していない、着手の段階では想定していないということを、きちんと冷静に把握をしていただきたいと思います。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

それは、私もその通り指摘しているとおりです。ところでさっきのあの、江差に出来た新会社の取引についての説明の時に、これ6月6日にあったんですが、これ役場内においてありました。この時ですね、この代表者、社長になる人が見えていないんです。新会社の取締役である方が肝心の江差の社長、代表者が来ていない。聞きますと、例えば近々ではお中元などそれからいろんな所の販売など、名古屋方面での販売、それこそセントレアのを含めてお歳暮までいくんですか？などもその会社の名前を通すけども、実質担当するのは江差町役場職員が担当すると話を聞きました。それではそういう民間の会社に江差町職員がどうして経費を使ってまで絡むのか、まさか今後、この社長を公務出張扱いで役場で経費をもってまでそれを送ることはないとは期待していますけど、負担したりしたら大変なことになるかなと思いますけど、それをどういう風な会社なのか、電話も聞くところによると江差の電話にかけると転送になると話を聞きました。実質やるのはこの函館の人たちが扱うことになるのですか、ええ、こういう状態で江差町が公費を使って税金を使って、今まではともかくですよ、今まではともかくとしても、これからもそういう方針で町が色々な経費をもって町の職員を使ってやるのかどうか。それならばおかしいと思いますが説明をお願いします。

(議長)

「町長」

「町長」

民間会社が設立されて、江差町が出資している段階でない会社のことについて、私たちが貴方から質問を受けていちいち答える必要はないと思いますよ。

基本的には今までは、そういうルート江差の地域性を含めた産業の振興・雇用の開発を含めてそういう方々を含めてつなぎをつけるために囑託し1～2回出張させてもらったことがありますよ、さっきも言いましたけども会社が設立した以上は会社がやるべきなんです。町はそのフォローすることが関の山です。そういうことからすると、民間会社が立ち上がった以上、その企業がああでもないこうでもないと言った話はね、私はね、貴方の質問に答える必要はないと思いますよ。

「横山議員」

議事進行。議長、議事進行。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

先ずその、今の説明について私の言ったことが良く理解されていなかったの
で、まあ、言った意味は先ず電話も転送になる実務も役場職員がやっているそ
れでいて手数料は15%その会社に入ることになっている、ということなんです
が、実態は実務をやっていないのではないかと、そういう会社のことを何と言
えばいいのか私分かりませんので、先ほどそれを使いましたけども、その言葉
が悪いと言うのであれば、そのように曲解されるならば取り下げ、あれします。

内容はそういうことです。

で、今の議事進行の件は、今後もお中元からいろんな、ハイウェイ、道の駅
あるいはセントレアも含めていろいろ商品を送ったりとりまとめたりするん
ですが、実際は今現在、役場職員が役場においてやっているんですが、それを今
後もやるんですか、民間会社のことに、民間会社がそれを担うことが当然のこ
とじゃないですか、それに公費を使うと言うのは職員を使うと言うのはおかし
い。単なる支援では、域を超えていることだ。

まして、まさかやらないと思うけどもこれから向こうへ出張するその社長の
旅費等も、まさか公費、公務扱いすることがないかと思いますが、その辺の
確認のために、役場職員にこれまで通りやらせるんですか、やらせないんです
か。役場において。それが町長の言う支援の域なんですか。そこをはっきり言
ってください。そのことを直接答えていない。町長は。

(議長)

「副町長」

「副町長」

町長の答弁で、バトンタッチできる会社が設立された訳ですから、そこでバ
トンタッチしますと答弁を申し上げているはずですよ。

「横山議員」

議事進行。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

ちゃんと答えていない。役場職員にそれの実務を今まで通りやらせるのかどうか。そこだ。

(議長)

「町 長」

「町 長」

先ほど副町長が答弁したように5月17日で新しい会社が設立されたんです。現地法人が。以後については、現地法人である会社が主体的にその販路や交渉やそれらのことをやっていく。役場職員にはその企業のための、支援は現地法人である以上はいくらかフォローはあったにしても、今までの様なイベントの度に皆さんに声をかけてという手立てをすることは、私は少なくなると思えますよ。

ということはどういうことかと言うと、全くゼロかという話しになっても現地法人ですから、地域の中でその産物や雇用が生まれてフォローができるのであれば、横山議員の商品まで扱った話が今まであるんですから、そういうエリアはあったって当然だと思うんですよ。ただ、それは主体的に今まではうちの方とすれば、各イベント、それからセントレアのイベントこういうイベントを中心にしてその手立てをるところがなかったから、町がそのカバーをして行ったと言うだけの話でね、今後はそれらのことを販路を開拓する立場からするとその新しい設立した会社が主体的にやることについては、当たり前のことですよ。

かつ、地域の法人ですからカバーするんでないですよ地域の法人ですからそれらのことをフォローしていくことについては当たり前でしょう。横山議員の扱っている商品だっとうちの方の職員が扱ってフォローしてきた訳ですから。

(議長)

以上で「横山議員」の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。